

令和6年度（2024年度）石見さくら会居宅介護支援事業所拠点事業報告

1. 事業総括

要介護状態又は要支援状態にある高齢者自らの意思を尊重し、その有する能力を最大限に活かし、住み慣れたご自宅で可能な限り自立した質の高い生活を営むことができるよう支援致しました。

状態の悪化を予防できるよう医療・福祉の関係機関と連携し、公平・中立の立場で地域に根ざした総合的な支援を致しました。

2. 事業目標に対する評価

(1) 利用者サービスの充実

利用者一人ひとりの尊厳や希望を反映したサービス計画を作成し、また途中の状況変化に対する見直しを行い適切なサービス提供に努めました。

休日時の連絡も出来る限り対応し、緊急でのサービス提供が必要な場合は素早い調整を行い対応いたしました。利用登録から各月末日（或いは終了）までの在宅生活期間の算出を行い、登録者全体の平均在宅生活期間は2年9ヶ月でした。

(2) 地域社会との関係性強化

地域ケア会議に於いて医療機関・地域包括支援センター・社会福祉協議会・ケアマネ・サービス提供事業所が、専門職の立場から情報提供を行い、定期的に利用者個々の課題から地域課題を見つけ解決に向けた検討を行いました。今後は家族関係を踏まえる必要性のあるケース等、他の専門職と共に検討していく必要が増えると考えております。

(3) 生産性の向上

	指標名	指標値	実績
KGI (最重要目標指標)	計画稼働率	—	—
	計画職員充足率	100%	100%
	人時生産性	1.81	2.75
	労働生産性	—	—

3. 計画事業の総括

(1) サービスの取組み

要介護状態又は要支援状態にある高齢者が、可能な限りご自宅に於いて、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう配慮し支援を行いました。

要介護状態又は要支援状態にある高齢者の選択により、心身の状況、その置かれている環境等に応じ適切な保健医療サービス及び福祉サービス、施設サービス等、多様な事業所との連携により、総合的かつ効果的に介護計画が提供できるよう努めました。

要介護状態又は要支援状態にある高齢者の意思及び人格を尊重し常に利用者の立場に立ち、サービス等が特定の種類又は特定のサービス事業者に偏ることがないよう公平、中立の立場を保ちました。また要介護認定等に関する申請に対し、本人等の意

思を踏まえ必要な支援及び協力を行い、保険者から介護認定調査の委託を受けた場合も公平な調査を行うと共に知識を深めるための研鑽に努めました。

(2) 人財育成への取組み

計画していた研修はほぼ参加いたしました。事例検討等を行う集合研修に参加することにより「別な視点に立つことによる気づき」を得ることができました。

(3) 地域との関係強化への取組み

地域ケア会議等に積極的に参加し、利用者個々のケースを通して医療機関や地域包括支援センターと共に地域課題の解決策について検討を行いました。

(4) 生産性向上への取組み

計画的に効率よくモニタリング訪問を行い、利用者様一人ひとりのご自宅での生活がその方らしく継続して行えるよう取組みました。

(5) 施設整備への取組み

ケアプランデータ連携システムなどの情報共有ツールの利用について、他事業所の動向や情報収集を図り、7年度より運用する予定です。

令和6年度に実施した個別の事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

サービス事業

1. 利用者（入所者）状況

(1) 利用率・稼働率

(単位：人)

	登録定員数	年間平均数		利用率
		計画数	請求実績	
介護予防	33	30	27	90%
要介護	56	52	64	123%
計	89	82	91	111%

今年度における新規登録数は35件で、施設入所等による利用終了数は20件となりました。介護予防者数は計画数を下回ったものの要介護者数は計画数より増え、年間平均の保険請求実績は91件となりました。

(2) 利用者構成状況

(単位：人)

介護度別	計画数		請求実績		年度末構成割合	
	延べ	年度末	延べ	年度末	延べ	実績
要支援・総合事業	363	30	327	25	34%	26%
要介護1・2	570	42	588	51	53%	53%
要介護3～5	139	10	201	20	13%	21%

計	1072	82	1116	96	100%	100%
---	------	----	------	----	------	------

計画では四半期毎に到達件数を定め、計画数を上回る実績となりました。今後も医療機関や地域包括支援センターとの連携、民生委員の方々との情報共有を深めサービスの提供に努めていきたいと考えております。

2. 実施サービス

(1) 介護保険関係サービス

実施項目	質の高いケアマネジメントの実施
成果・評価	心身状況に応じて在宅生活が継続できる支援に努め、自立支援の観点から要介護度が悪化しないよう担当者会議等を実施し、介護計画に反映させるように努め、年間平均目標を上回る結果となりました。
KPI	維持・完全率 70% (年間平均)
KPI 実績	維持・改善率 99%

実施項目	健康状態の安定
成果・評価	サービス提供事業所と連携を図り健康状態の維持に努め、入院率を2%以内に抑えることができました。
KPI	入院率 2%以内 (年間平均)
KPI 実績	入院率 1%

実施項目	医療機関との情報連携
成果・評価	ケアプラン作成及び更新時期に於いて、利用者の通院時に同席させていただく等、生活環境面に必要な情報収集を行い作成に反映させることに努めました。
KPI	—
KPI 実績	—

実施項目	医療機関との情報連携
成果・評価	入退院時に、医療機関へ対し入院前の情報や退院後の様子などの情報連携を図り生活面の不安解消に努め、在宅生活継続の支援を行いました。
KPI	加算取得率 100%
KPI 実績	入院時連携加算 22 件(100%)、退院時連携加算 19 件(100%)

(2) 介護保険外サービス

実績はありません。

3. 人員体制の状況（常勤換算）

（単位：人）

役職名	計画		実績		差異	
	正職	非正職	正職	非正職	正職	非正職
所長	1 (0.1)		1 (0.1)		0	
主任介護支援員（管理者）	1 (0.3)		1 (0.3)		0	
介護支援専門員	1 (1.7)		1 (1.7)		0	
計	3 (2.1)		3 (2.1)		0	

人財育成事業

（1）事業所内研修

○心肺蘇生講習 全職員対象、2名参加
○業務継続計画（BCP）研修 全職員対象、2名参加

（2）事業所外研修

○認知症研修 全職員対象 1名参加
○労務管理研修 係長以上対象 1名参加
○看取り研修 全職員対象 2名参加
○介護支援専門員更新研修 対象職員 1名参加
○リスクマネジメント研修 全職員対象 1名参加
○人権・権利擁護研修 全職員対象 2名参加
○緩和ケア研修 全職員対象 2名参加
○罪を犯した人のための研修 全職員対象、2名参加
○認知症研修 全職員対象 2名参加

地域との関係強化への取組み

実施事項	地域ケア会議
成果・評価	定期行われる会議に積極的に参加し、事例を通して地域課題の抽出や解決策を探ることで関係機関との連携を強化することができました。

生産性向上への取組み

(1) 新規加算取得への取組み

取得計画
・ターミナルケアマネジメント加算 ・特別地域加算
<評価> 特別地域加算の算定は実施しましたが、ターミナルケアマネジメント加算については、対象者がいなかったため算定の実績はありません。

(2) 業務改善の取組み

面会時の内容を録音するためのボイスレコーダーを導入し、その録音内容を PC 内データへ反映させることで業務短縮と効率化を図ることができました。

施設整備事業

実施事項	データ連携システム導入準備
実施内容	近隣地域の関係事業所の動向や情報収集を行い次年度導入に向けて準備を行いました。

積立の状況

(単位：千円)

積立目的	計画	実績
その他	0	0

感染症・災害への対応への取組み

事業継続計画(BCP)について机上訓練を実施し見直しを行い、また邑南町で作成された各地区の防災マップを基に利用者宅付近で災害が発生しそうな場所及び避難場所の確認を行いました。

4. 苦情解決(要望含む)の結果について

令和6年度において、以下の苦情が寄せられ解決を図りました。

苦情事例【1】

発生日	令和6年6月3日
申立人	利用者の妹様
苦情内容・要望	■説明・情報の不足 家屋調査をするという連絡がなかった。調査に至った経緯を知りたい。
処理結果	経緯については、入院中に病院より在宅復帰可能との連絡があったため、本人・病院・居宅と同意のうえで家屋調査を実施させて頂いたこととお伝えする。調査実施の連絡をしなかったことについては身元様への連絡はご本人が行う

	といわれたため任せており、確認不足であったことをお詫びし了承される。
第三者委員の関与	解決結果を報告済

苦情事例【2】

発生日	令和6年7月1日
申立人	利用者の娘様
苦情内容・要望	<p>■サービスの質</p> <p>「ショート利用から帰った日にカバンの中に連絡帳が入っていた。本人が読んだら傷つくのではないかと思う内容だったため、文章内容にはもう少し配慮して欲しい。書きにくい内容であれば直接連絡してもらいたい。また、服が1枚足りなかったのが職員さんが入れ忘れたと思われるが、こちらに非があるように言われ良い気分がしなかった。忘れ物をした場合、本人または家族が施設へ取りに伺う場合や、施設側が届けてくれる場合があるのだが、対応の仕方を再度職員間で検討(統一)してほしい」との連絡があったことを該当施設へ報告する。</p>
処理結果	連絡帳については、新たに導入したものであり説明不足であったこと、文章内容については今後十分に配慮することをお伝えしお詫びした。忘れ物については、施設側が届けることで統一することもお伝えしたと施設より報告を受ける。
第三者委員の関与	解決結果を報告済

苦情事例【3】

発生日	令和6年10月28日
申立人	利用者様
苦情内容・要望	<p>■サービスの質</p> <p>昨年度まで担当していたケアマネが退職したことを知らなかった。介護サービス利用を考えているが、誰に相談したらいいのかわからない。退職して担当が代わったのであれば、連絡してくるのが筋ではないか。</p>
処理結果	<p>担当となるケアマネが自宅を訪問し、引継ぎに関し不手際があったことをお詫びし、改めて担当となるケアマネであることをお伝えし承頂いた。</p> <p>*昨年度サービス利用がなかったため、担当引継ぎ者リストに載せていなかったことが原因。</p>
第三者委員の関与	解決結果を報告済

以上

令和7年度(2025年度)ファミリー・サポート・センター拠点事業計画 ＜石見さくら会さくらんぼクラブ＞

1. 事業方針

ファミリー・サポート・センター「石見さくら会さくらんぼクラブ」は、子育て支援センターを拠点とし、子育て支援団体・各機関と連携を図り、地域の子育て家庭が安心して子育てできるように支援をしていきます。

2. 事業目標

子育て家庭を対象に、さくらんぼクラブ事業の周知を図り、会員組織の機能充実と地域のネットワーク構築に努めます。

3. 事業計画

サービス計画

・会員構成（令和7年度末時点）

	会員数
おねがい会員	26名
まかせて会員	16名
どっちも会員	1名

・サービス実施計画

実施項目	会員組織の拡大
実施内容	邑南町所轄課と連携し地域の方への周知を図る。 <u>事業の周知及び会員募集</u> ・チラシの配布等、周知活動の実施。 ・要請に応じて個別に出向き事業の説明を行う。 ・年度始めの保護者総会で事業内容の説明を行う。

実施項目	信頼関係の強化
実施内容	まかせて会員とおねがい会員との信頼関係を構築するため以下のことに取り組む。 <u>交流会の開催</u> ・年1回、まかせて会員及びおねがい会員とその子どもが共に交流する機会を設ける。

実施項目	人材育成
実施内容	まかせて会員の専門知識の向上を図るため以下のことに取り組む。 <u>講習会への参加</u> ・ 邑南町が主催するファミリーサポートセンター講習会への参加。

実施項目	助成事業
実施内容	・ おねがい会員への利用料半額助成を実施し、子育て家庭の負担軽減を図る。 ・ まかせて会員の車両保険加入。

・ 組織及び人員体制計画

組織体制計画 / アドバイザーは子育て支援センター職員が担当する。

研修計画

(1) 事業所内計画

会員専門研修	対象職員	まかせて会員	予定人員	5名
救急法等必要な専門的知識を学び知識を得る。				
ファミリーサポート研修	対象職員	まかせて会員	予定人員	5名
専門的知識の向上を図る。				

(2) 事業所外研修（外部派遣研修）

県主催アドバイザー専門研修	対象職位	保育士	予定人員	1名
ファミリー・サポート・センターの現状等情報交換を行う。				

以上